

23年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

“人間形成の土台づくり”が、学校法人谷岡学園教育理念“世に役立つ人物の養成”へとつながるように、子ども達の遊びや生活を軸にした教育活動を行います。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園児の入園から就学前までを見通し、教育課程を基に指導計画の充実に向け、教職員間で話し合う場を多く設けるなど、教育内容の改善と個々の資質向上に主体的に取り組む。
- ・保護者との連携を通して、子ども達の基本的な生活習慣を推奨し、教育効果を高める。
- ・教育研究環境の整備（保育用教材（大型積木）を入れ替える。1階保育室に空調、ロールカーテンを設置する。1階保育室、ホール、職員室へ網戸を設置する。）

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	教育目標、建学の理念と幼稚園教育要領の接点を求め、子ども達の実態に即したねらいに基づき、学年毎に内容を検討することができた。
建学の理念、教育要領、教育課程、子どもの実態等を基に指導計画を作成する。	教育目標、建学の理念と幼稚園教育要領の接点を基に、各項目に対する指導計画を学年ごとに作成し、実施した。また、子ども達の実態を踏まえて学期毎に加筆、訂正を行い、充実を図った。各学年の担当教員が連携し、意見交換をしながら、子どもたちにとって有効な指導計画となるよう心がけた。
教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させる研究会等へ積極的に参加し、教員一人ひとりの資質の向上に努める。	教職員間で園内研修・情報交換を行いながら、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践するよう心がけた。各行事の打合せ及び反省会や、職員室で日々先輩・後輩の意見に耳を傾けるなど、お互いの考えを出し合い議論する機会を持った。また、子どもの学びや育ちを保証する教材研究を実施した。 外部で開催される研修会にも積極的に参加し、自己啓発に臨んだ。今後も教員の資質向上に役立つ研修等には積極的に参加し、日々の保育に役立てて行きたい。

評価項目	取組状況
園だよりや子育てサロン、ホームページやブログなどを通して幼稚園の情報を発信していく。	保護者との懇談や参観、子育てサロン、学年懇親会などを定期的を実施して子ども達の学びや育ちを伝えた。また、保護者の思いや考えを受け止め、丁寧に対応し、特に園内で起きた事故等に関しては説明責任を果たすことを心がけた。 ホームページをリニューアルし、在園児の保護者だけでなく、一般の方にも園の教育活動に興味を持っていただけるように工夫して情報を発信した。今後も園の活動について定期的に情報を発信していく。
安全に配慮した環境づくり	園内（保育室、ホールなど）、園庭の環境整備のため、園児が園内で生活するにあたり危険な箇所がないかどうか定期的な点検を実施した。必要に応じて、備品や教具の移動、遊具の塗装、改修等の整備を行い、園児が園内で安全に過ごせるよう配慮した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組状況を話し合うことを通して、本園としての教育方針を明確にすることができ、それを実践することができたと同時に、今後も全教職員が学校評価の趣旨を理解し、継続して自己点検・自己評価に取り組む必要性を感じている。

また、多様な子供に対応するため、教職員の資質向上が求められている。幼稚園の社会に対する役割も踏まえ、自らの教育活動を客観的に振り返りながら更なる向上を目指す。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者ニーズの把握と建設的なコミュニケーションのあり方を検討する	建学の理念に基づいた教育に十分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像について、保護者との懇談や参観、子育てサロン、学年懇談会の開催、保護者アンケートを実施するなどして把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎とする。また、情報発信を通じて保護者への理解を求め、教育の内容を深める。
特別支援教育の充実	特別支援を要する子ども達へのアプローチについて、教員が知識を習得するための専門研修に参加するなどして援助の在り方を学び、日々の保育につなげていく。特に、近年増加傾向にある特別支援を要する、または疑いのある子どもの保護者に対し、定期的な個別面談を実施し、必要があれば専門家の指導を受けられるようにするなど、配慮の方法を検討する。

課 題	具体的な取り組み方法
地域・系列校との連携	地域住民の方も参加できる行事（夕涼み会、敬老会、商幼祭など）を通じて、幼稚園の取組み、行事などへの理解を得る。また、学園のスケールメリットを活かし、系列校（大学・短大・高校）と連携（高校の運動会への参加、大学への訪問など）し、園児の成長の場を創り出すとともに、理想的な幼児教育を追求する。
預かり保育の充実	在園児預かり保育（延長保育）の料金を見直し、保護者が利用しやすい環境を提供する。
安全対策	不審者対策として、園舎周辺（正面入口付近・東側出入口付近）への防犯カメラを早期に設置するよう準備する。
施設・設備の有効活用	24年度は園児数が増加するため、その対応策として、保育や行事に必要な遊具、備品などを整理し、安全でより広い遊び場所を確保する。
開学 60 周年事業実施に向けた準備	平成 26 年度に開園 60 周年を迎えるにあたり、記念事業（式典、公開保育など）の実施に向けた準備をすすめる。

6. 学校関係者よりの意見

24年度入園手続きの保護者の意見より、「教育方針がしっかりしている。」「園庭の自然や池があり、子ども達がしぜん遊びたくなる環境」そして「先生達も話やすく幼稚園の雰囲気が良い」と称された。このことを具現化するべく各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。